



岡 津

平成29年度のキーワード
「つなぐ^{×3} そして、その先へ。」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okazu/>

学校だより2月号
平成30年1月31日
横浜市立岡津小学校
校長 小竹 護
TEL 811-4104
FAX 812-4586

学校長 小竹 護

「助詞」は意思を伝える信号

新年の挨拶に添える「今年もよろしくお願ひします。」この「も」には、去年もそれ以前もお世話になりました、という気持ちが入められています。「今年はいいい年でありますように」は、去年はあまり満足できない年であったことが、「今年こそ優勝するぞ！」からは、今後にかかる固い決意が読み取れます。「助詞」は文字にすると一字か二字ですが、そこには、過去の事情や現在の状況、今後への期待などが込められています。



雪遊びに興じる子どもたち(なわとびひろば1. 23)

さて、職員室に入ってきた児童が、いきなり大声で「先生、カギ。」と言ったとします。そこで、入口近くの先生が、「何先生に用ですか？ここにいるのは全員先生ですよ。そしてカギって、何のカギですか？」と聞きます。そこで、児童は「体育館のカギ。」と答えます。ほぼそこで用は足りるのですが、先生は、「それがどうしたのですか？」と聞き返すと、「貸してください。体育館のカギ。」と答えました。「最初からそう言えば分かるのに。で何に使うのですか？」……。このような光景はいろいろな場面であります。つまり、単語の羅列だけで済ませてしまうことです。つい、子どもの言いたいことを汲み取り、大人が勝手にその先を判断して物事を進めてしまうことも多いと思います。私たちが時間の追われていて、数秒待つことも難しいと思ひますが、そうしないと、子どもたちは、単語で事が足りると思ひてしまいます。大人が助け舟を出したり、子どもから次の言葉が出てくる前に、大人が物分りの良いお喋り相手になってしまったりすると子どもたちの言葉は育ちません。話し手の意思を表す助詞が出てくるまで待つことが大事になります。

岡津小学校では、数年前から、職員室に入るときに、『失礼します。〇年〇組の△△です。(用事)で入ります。』と言うように指導(岡津っ子スタンダード)しています。一年生でもできるように職員室ドアに張り紙もしています。今では、ほとんどの子どもたちができています。「失礼します。〇年〇組の△△です。体育で体育館を使用するので、体育館のカギを貸してください。」というように文で話すことが大切です。助詞を省かず、最後まではっきりと話すようにしたいです。

(参考: 日本教育会「日本教育1月号: 言葉新事情」)